

## 5円コブハクチョウの昭和40年代使用例

永吉 秀夫

1972年2月の料金改訂に備えて新図案で発行された切手ですが、その後2010年に新字体切手に改められるまで、50年近くも使われました。マニアックな観点からは、料金改定前の短期使用例に目が向きますが、その後の書状20円期間の使用例をきちんと揃えておくのが基本でしょう。

紹介のリーフ(古リーフの裏を利用した仮貼りなので、反対側の書き込みが透けて見苦しいところがありますがご容赦)、左側は2倍重量定形書状に、重量増料金分として5円切手を利用した例、右側は4枚貼りで基本重量定形便に利用した例です。ぎりぎり2枚並べてポストクリーフに貼るこ



とができました。右側の封筒に押されている「消印もれ印」がちょっと変わっているだけで、どちらもまあ駄物ですが、駄物過ぎて結構入手に手間取るものです。

駄物ばかりではということで、ちょっと変わった使用例も紹介しておきます。下のリーフ(これも古リーフの裏で失礼)に貼ってある葉書は、アジアオセアニア郵便連合加盟国あての低料船便葉書用に発行された葉書を航空便で差し出すために、差額15円分を5円切手3枚で充当した使用例です。15円1枚貼りや10円+5円貼りが素直な貼り方ですが、5円切手の使用例としては、5円3枚貼りの方がずっと見栄えがします。

しかし本当は、切手加貼なしでそのまま船便として差し出して欲しかったものですね。この葉書の自然な単独使用済は、今までに見たことがないような…。日専評価は15000円とか。

